



ケアスタッフ（看護助手）のお仕事



病院では、医師、看護師、薬剤師などの資格が必要な職種だけでなく、資格が無くても働くことができる職種がいくつかあります。そのなかの1つがケアスタッフという職種です。

ケアスタッフとは、2階から5階までの各病棟で働いており、退院時の清掃、ベッドメイキング、食事の配膳、おむつ交換、入浴介助など患者さんの身の回りのお手伝いや看護師のサポートが主な仕事内容です。直接的な医療行為をすることはできませんが、患者さんと接する機会が多く、やりがいの多い仕事です。

市民病院では ケアスタッフを募集しています

勤務時間	A 交代勤務あり（月曜～日曜日の週3～5日間、7時間30分勤務） ※早出、遅出あり
	B 交代勤務なし（月曜～金曜日の週3～5日間、7時間30分勤務）
	C 短時間勤務（月曜～金曜日の週5日間、5時間30分勤務）
時給	A 時給1,100円以上 B・C 時給1,013円以上 ホームヘルパー2級以上の資格取得による加算あり

勤務開始日 相談により決定します

申込み 市販の履歴書（写真貼付）を市民病院管理課総務係 ☎(48)5050

※詳細はお問い合わせください。

碧南の歴史へのいざない

問 文化財課内市史資料調査室
☎(41)4566

No.72 油ヶ淵の誕生(1)

1605年、矢作新川が開削され河口は米津村となりました。『明治村史』には、「新たにできた矢作川は大量の土砂をもたらすと同時に、新しい河道は右岸沿いに流れ米津新田から根崎村、東端村方面の北浦入江へととうとう流れ込んだ。」と書かれています。これは左岸の川底が高いため水流（滞筋）は北浦方面へ向かったものと思われます。北浦の海は広く、岸边には次の村々がありました。米津、城ヶ入、根崎、東端、和泉、榎前、高取、西端、大浜、鷺塚の村々でした。

一方、急速に北浦周辺の村々に消滅したのが「塩」をつくる塩浜（塩田）です。矢作川が流れ込む以前、北浦や東浦の海岸ではあちらこちらで塩がつくられていたことが確認されています。西端村を例にすると、西端米願寺の蓮如絵伝には塩焼きといって、海水を煮ている場面が描かれています。西端村で塩をつくっていたのです。米願寺の住職祐明が書き残した記録によ

れば、1593年、西端村塩浜の広さは、3町63畝17歩（約36,000㎡）とあります。

『明治村史』には、「城ヶ入村では1604年の検地までは塩浜が確認できるが、これ以後の塩浜は確認できていない。」と書かれています。これは、矢作川が北浦に流れ込んだことで、この地域の塩田は急速に消滅していったことを物語っています。矢作川本流の真水によって塩づくりができなくなったのです。東浦の海も同様で、大浜村と棚尾村の間にあった塩浜（塩田）は、開削から19年後の1624年には、東浦にあった塩浜へ海水を導く河道を衣ヶ浦（西浦）へ移しています。現在の大浜漁港は、この河道（堀川）の河口となります。

